



関西支部報

http://www.jackansai.com

関西支部設立80周年記念式典開催さる

重廣恒夫

1935(昭和10)年9月1日に日本山岳会最初の地方支部として設立された関西支部は、本年80周年を迎えました。記念式典の場所を六甲山の麓神戸三ノ宮としましたのは、日本を代表する都市山・六甲山は、明治中期以降神戸の居留外国人たちがスポーツ登山を開始した場所であり、後に日本山岳会の創立を小島烏水に助言した、ウォルター・ウエトンが英国教会宣教師として、1889(明治22)年から滞在するなど、日本の近代登山の幕開けとなった場所であるからです。その後、在留外国人たちの登山活動の影響もあって神戸に多くの登山団体が設立され、六甲山系での登山が活発になったこと、関西支部設立の中心となったロッククライミングクラブ(RCC)の藤木九三さん達が先鋭的な岩登りを始めた、日本の近代アルピニズム発祥の地でもあったからです。

5月30日、ホテル北野クラブ六甲荘で開催された記念式典には、本部から森武昭会長、節田重節副会長、齋藤惇生・尾上昇元会長、村井龍一・橋本清元副会長をはじめとして、青森・秋田・群馬・栃木・東京多摩・千葉・静岡・信濃・東海・岐阜・福井・京都滋賀・山陰・広島・四国・北九州・東九州・宮崎など18支部、首都圏からの

参加者を含め84名の会員の方々に参列いただき、関西支部員79(うち会友5)名、招待者や会員外の参加者を含めると総勢176名という多くの方々の集いとなりました。

記念式典では、森会長からロッククライミングクラブ(RCC)、旧制高校、関西学生山岳連盟などの活躍を糧として関西支部が設立されたこと、その後、時代の趨勢により1986年京都(現京都・滋賀)支部、1997年広島支部、2012年四国支部の分離独立や、会員の高齢化による会員減少という衰退要因がありながら、現在も旺盛な登山活動や自然保護活動を維持していることご祝辞をいただきました。また、藤木祭を共催している、飛田典男大阪府山岳連盟理事長・中西研一兵庫県山岳連盟会長からは、少子高齢化が進む中で、自然保護や安全登山の啓発活動などで手を携えていくという、今後の活動の連帯を表明していただきました。

3時過ぎからは、「但馬が生んだ孤高の登山家、加藤文太郎と植村直己」と題してフォーラムを開催しました。第1部の「孤高の登山家 植村直己を語る」では、関西支部員である元副会長の平林克敏さんの講演で、1970年日本山岳会エベレスト登山隊の登頂者同士ということも

目次

関西支部設立80周年記念式典開催さる	重廣恒夫	1
関西支部設立80周年記念山行	若林朋世/岡田輝子/宮川流太郎	3
80周年記念事業募金の中間報告	斧田一陽	4
関西支部と私	斧田一陽	5
支部山行報告		
関西支部県境縦走27	若林朋世	6
桜を愛でながら白亜の大山守白鷺城を 見よう!	山内幸子	7
ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化	山内幸子	7
を訪ねる22	山内幸子	7
関西支部県境縦走28	黒田記代	8
ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化	久保和恵	9
を訪ねる23	山内幸子	9
関西支部県境縦走29	松仲史郎	9
4000山グランプリ	岡田輝子	10
ゆるやか山行	岡田輝子	11
ベニバナヤマシヤクヤク鑑賞	岩崎しのぶ	12
80周年記念海外登山 西穂高岳北西尾根	黒田記代	12
合宿報告	秦 康夫	13
「本山寺山森林づくりの会」活動報告	赤山伸夫	14
回想・大賀さんと好日山荘	橋本圭之輔	15
自己紹介		
水曜会について		
会務報告		
第1回委員会議事録		16
第2回委員会議事録		17
新入会員		18
ルーム日録		18
受贈一覧		18
支部山行計画	15年10月~12月	18
自然保護行事	15年10月~12月	20
スケッチ同好会の報告とご案内		21
「著者と語る会」のご案内		21
編集後記		22



あって植村さんの人柄や、植村さんを壮大な探検や冒険に駆り立てた内面について裏話も含めて語ってもらいました。植村さんの生き様はもとより、会社の発展を支えながらいくつもの未踏峰の初登頂を成功させた平林さんの「情熱と行動」の熱き心も感じさせるものでした。第2部の『山の声～ある登山家の追想（大竹正典原作「山の声」より）』は支部員でもある加藤芳樹さんの脚本・演出によるもので、2人の出演者（うち1名は加藤さん）とバイオリンとギターによる朗読劇です。『山の声～ある登山家の追想』は加藤文太郎の手記『単独行』を下敷きに、1936年1月、盟友・吉田登美久と2人で挑んだ槍ヶ岳北鎌尾根の遭難を描いた二人芝居。山に憑りつかれた男たちの人生の喜びや孤独を、力強い台詞で語る迫力に参加者の誰もが感動しました。これまでも六甲山上、加藤文太郎の生誕地浜坂、横尾山荘、松本山岳フォーラムでも上演されており、2009年第16回OMS戯曲賞大賞受賞、2011年3月MBSラジオでも放送されています。

フォーラム終了後、中庭に参加者全員が集合し記念写真を撮りました。

6時30分より開宴した祝賀会では、支部在籍40年以上の長期在籍者（個人71名・4団体）のうち今回の祝賀会に参列された20人に感謝状と記念品を贈呈させていただきました。その後、京都・滋賀支部の齋藤惇生元会長の乾杯の音頭で宴の幕開けとなりました。参列者の喉があらかた潤った頃合いを見計らってリピート山中さんの歌とトーク「孤高の人…加藤文太郎の歌」がはじまりました。1960年神戸市生まれのリピート山中さんは、桂雀三郎withまんぷくブラザーズとしてメジャーデビュー、高石ともや氏に見いだされ、ソロシンガーとしての活動を本格化。2000年、自作の『ヨーデル食べ放題』が大ヒットした体験派シンガーソングライターで、北アルプスや富士山の山小屋や山頂ライブも多いと聞いています。今年3月22日から『ヨーデル食べ放題』がJR環状線鶴橋駅で発車メロディーとして流れています。氏の軽妙洒落な語りと歌は、予想を超えた参加者で山小屋の食堂状態の

宴席を和やかなものにし、予定の時間はあっという間に過ぎていきました。

翌31日、記念山行には107名の参加者がありました。藤木九三さんの命名されたロックガーデンコースは、高座の滝で藤木さんのレリーフを見ていただいた後、雨ヶ峠を経て七曲りから六甲最高峰に登りました。東お多福山コースは、近年関西支部が協働している「東お多福山草原復元活動」の現場を見てもらい六甲最高峰に登りました。北野町散策コースも、散策の後バスで一軒茶屋に移動し、ほとんどの参加者が六甲最高峰を踏まれました。事前の気象予報では降雨が予想されていましたが、予想外の好天で雨に遭うこともなくいい汗をかいていただき、その後有馬温泉で汗を流していただくことができたのは、「記念山行の天候の良し悪しも支部長の責任」と言われていただけにラッキーでした。

関西支部設立80周年記念事業は、記念式典・記念登山だけでなく、支部活動80年の歴史を振り返る『日本山岳会関西支部八十年史』の編纂と、70周年の中央分水嶺踏査に引き続きおこなった四国分水嶺踏査、近畿分水嶺踏査、続近畿分水嶺踏査のうち2009年4月から2012年12月までをまとめた『近畿分水嶺踏査』を編集担当者奮闘によって発行することができました。

記念事業の一環としては、2013年1月から兵庫県・岡山県、兵庫県・鳥取県、兵庫県・京都府、大阪府・京都府、大阪府・奈良県、奈良県・和歌山県の県境を縦走する関西支部県境縦走を実施しています。瀬戸内海から日本海へ、日本海から太平洋への海水をリレーしながら歩く約800kmに及ぶ長丁場であり、やっと大阪・京都府県境に到達したところですが、これから南紀・新宮へ向かって南下する縦走が継続されます。また、2016年には、「日本山岳会創立110周年・関西支部設立80周年記念事業」として東ネパール・カンチェンジュンガエリアのナンガマリⅡ峰からⅠ峰(6547m)の縦走登山隊の派遣を予定しております。

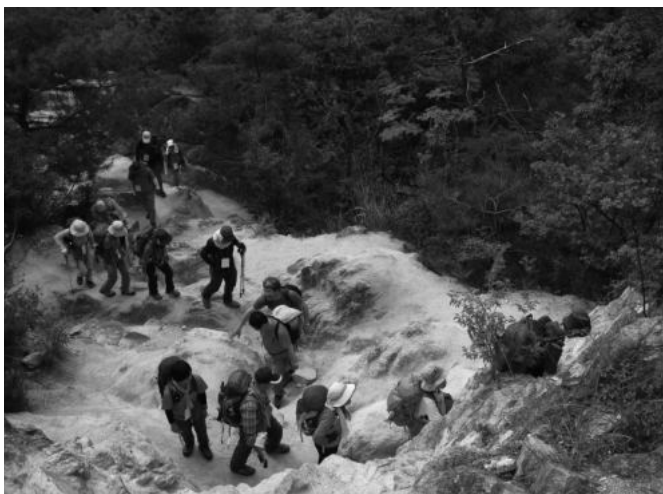
80周年記念事業遂行のための募金では、関西支部の方々だけでなく他支部の方々からも多大なご寄付をいただき有難うございました。心から御礼申し上げます。

突然ではありますが、6月20日におこなわれた総会で監事に任命されましたので、規約に法り支部長を辞することになりました。支部設立70周年から80周年にかけての10年間、支部の皆様方の励ましとご協力により無事勤め上げることが出来ましたことに感謝申し上げますとともに、これからの支部の益々の発展をお祈り申し上げます。

関西支部設立80周年記念山行 (支部山行15-8)

Aコース ロックガーデンから 六甲最高峰へ 若林朋世

朝から気持ちのいい快晴だった。段々と強くなる日差しに夏の訪れを感じる。少し歩くと汗ばむくらいの気温だった。当日は何事もなく…とはいかず猪にザックを狙われた方もおられたが、大きな怪我もなく良かった。最後は有馬温泉に入り疲れを癒されて皆さん満足気だったように思う。私としても他の支部の方々々と交流できてと



ロックガーデン中央後を行く 写真提供：重廣恒夫

ても良い経験になった。

山行自体は一般的なハイキングコースで、道は良く整備されており道に迷う心配も無かった。私が登ったのはAコースで山芦屋公園から風吹岩を経て七曲がりを通って六甲山最高峰を踏む。救護班として最後尾を歩いた。いつもならボーイスカウト等の団体客とすれ違うことが多いのだが当日はそれほどでもなかった。行程は順調で、予定時刻よりも一時間ほど早く終えることになった。

今回私は一応スタッフとして参加させて頂いたが、視点としては参加者側に近かったように思う。小学生の頃の遠足に出かけるような気分だった。事前の打ち合わせに参加させてもらったが、それが無かったらどれほど安全性に心を砕いていたのか気がつかなかったかもしれない。90周年ではもう少し尽力したいと思った。それ以外にも今回得た四国支部とのつながりも今後大事にしていきたいと思っている。最後にスタッフの皆さんお疲れ様でした！

【参加者】8班編成 計75名

Bコース 東お多福山から六甲最高峰へ 岡田輝子

東おたふく山登山口にて斧田CLのご挨拶、薦田氏によるストレッチ。見上げる空は真っ青で記念山行にふさわしく、眩い。六甲山からヒマラヤへ、日本山岳会の一員として歩ける喜び、心底、一步一步が嬉しい。木々の緑も太陽を浴びて輝いている。山道は細いがしっかりと踏まれて固い、六甲は多くの人が歩いている。

ほどなく、東お多福山に到着。視界が広がり、緑の草原に飛び出る。かつては笹の山だった。登山道を広げる刈り込みのあとを歩く快適さ、整備のありがたさを痛感する。斧田CLより植生の説明、白い紐で囲ったところが道の両側に点在し、それぞれの植生の調査が年に数度行われている。桑田氏より展望広がる大斜面の、そこかしこの今後の養生、植生、整備の計画を伺う。この遠大な話は、ぜひ参加させていただき、今まで山からもらうばかりであった自分が、微力ながらも山に何かお返しができるのではないかという気持ちが強くなった。

四等三角点を確認し、雨ヶ峠へ。日陰になったので立ち休憩。水を飲む。おっ、イノシシが歩いてくる。我らの周りを半周、キバはない、と思った矢先、地面に置かれた赤いザックを銜えるやドドドーと猛スピードで笹藪へ逃げ去るではないか。あっけにとられ呆然。ザックの持ち主と、薦田氏、魚津氏が果敢に追いかけるも、速い速い。聞くところによると、姿を見失うも赤いのがチラと見え、走る、ヤバイ、その先は崖。一時はこちらへ突進してきそうになり木に登ることも脳裏をよぎったそう。笹の音にびくついたらしい、三人で挟み打ちにして



草原復元作業の説明を受ける 写真提供：岡田輝子

ザックを取り戻すことに成功。イノシシの涎まみれでも戻って有難い。ハプニングの捕り物でした。

このあとの小休止も、あたりをおもむろに観察してから水分補給する我がグループ。大丈夫だよと斧田CLは涼しい。イノシシ騒ぎの興奮醒めぬうちに、七曲がりもいつの間にか登り、一軒茶屋に到着、無事を喜ぶ。整列して六甲最高峰に向かった。【参加者】13名

Cコース 神戸・北野町散策

宮川流太郎

朝8時30分六甲荘ロビー集合。キャンセルが相次ぎ参加者19名で出発。まず北野観光案内所までゆっくり歩を進める。観光案内所前で依頼していたボランティアガイドから北野町散策コースなどの説明を受けたあと2班に分かれ出発。

はじめに北野天満神社へ参る。天満神社の急な階段を登り境内へ。神戸の町並み、神戸港と大阪湾を一望できる素晴らしい展望台だ。皆さんは景観を堪能されたようだ。続いて「うろこの家」や「山手八番館」の説明を受けながら散策。北野界隈は人が数人すれ違う程度の急坂の狭い道が多く、観光客が多いので混みあって歩きづらい。これら狭い道は昔北野周辺に田畑があった所以で、そのあぜ道がそのまま道になったという話に、参加者の方々は興味深く耳を傾けていた。町の佇まいを味わいながら周辺を回遊して再び観光案内所まで戻り、傍にある「風見鶏の館」入館した。殆んど当時のままの屋敷内の

建具や調度品の特徴ある仕様や歴史など、ガイドの懇切丁寧な説明のお蔭で大変印象深い見学となった。

さらに外国寺院巡りの予定も入っていたが、六甲最高峰での集合時間が迫ってきているため見学は二つに短縮した。一つはイスラム教のモスク。しかし、礼拝中のため残念ながら外部から外観のみの見学となった。次に訪れたのがカトリック神戸中央教会。ラッキーなことにちょうどミサが終わったところだったので、礼拝堂の見学が可能となり、美しいと言われている有名なステンドグラスを堂内から見る事ができて良かった。

11時に六甲荘帰着、北野町散策コース終了のあいさつの後、預けていた荷物を受け取り、グリーンホテル前に移動、全員が待機していたバスに乗車した。12時過ぎに六甲山「一軒茶屋」前に到着、A班、B班と無事合流した。

【参加者】19名



六甲荘前にて寛ぐ 写真提供：宮川流太郎

80周年記念事業募金の中間報告

関西支部設立80周年記念事業
募金委員会事務局

昨年12月よりお願いしてまいりました「関西支部設立80周年記念事業募金」につきましては、会員の皆様はじめ多くの方々のご賛同を得、下記の通りご協力たまわりましたのでご報告申し上げます。

おかげさまで、平成27年6月末時点で、既に目標額を超える募金を頂戴することができました。厚くお礼申し上げます。すでに、記念事業のうち、「記念誌出版」、「記念式典・フォーラム」は予定通り挙行でき、残す所は「記念海外登山隊の派遣」のみになりました。

この海外登山については、東ネパー

ル東北部のナンガマリⅡ峰(6211m)～ナンガマリⅠ峰(6547m)の縦走を、来年のプレモンスーンに実施すべく、地域研究や登山技術などのトレーニングに取り組んでおります。

募金につきましても、記念事業のすべてが実施されるまで継続してまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

募金者芳名一覧

(2015年7月6日現在)

【会員】(会員番号順)

10,000円 大塚博美 平山善吉 荻

野昌宏 野村哲也 藤本三樹雄 岡田博司 高田 誠 植西武司 桑田 結平野征人 高田允克 高島法男 斉藤祐二 塚崎義人 早田道治 門田喜弘 明石貴雄 内田喜弘 大西康郎 武庫川女子大学鳴松山岳会 大島秀夫 和田豊司 川田哲二 川北昌博 宇都木慎一 金澤康夫 西村政晃 加瀬憲二 内田昌子 田中壮佑 古家 浩 田中文男 大島康弘 轟昌一郎 木村裕一 上田修美 新井 浩 大津陸郎 中祖博司 黒田守彦 松村文子 平井喜久枝 角橋通弘 田中昌二郎 松波幹夫 伊原哲士 小林 貢 岡田米司 野村

担当など、支部の自然保護委員としても取り組むようになりました。入会した頃は、各地で開発計画があり、山岳景観を守る観点からも山岳会の自然保護活動が活発に展開され、各地で数々の成果が見られました。世間の自然保護への関心の高まりと共に、このタイプの問題は少なくなりました。最近では、地球温暖化や生物多様性の問題と鹿の食害が、大きな注目点となっています。森づくり活動も、単に森づくりをするのではなく、これらの観点を理解した持続可能性を掲げた活動が求められていると思います。

支部にある図書は、先人の努力による貴重な山岳関係

の書籍が多く、山岳文化の一分野として後世に伝えられるべき物だと思います。最近では書物に関心を寄せる人が少なくなったようで、図書委員として整理の手伝いをしていますが残念なことです。

最近のやまみちは、維持管理がされていないところが増えていきます。しかし、利用者自身が片手鋏と折り畳みの鋸を携えていれば水切りや倒木処理などの手直しができます。この程度なら山歩きの時に、殆ど時間もかかりません。小さな実践活動が、山を守ることに繋がりますのでお勧めいたします。

(会員番号8203 支部委員)

支部山行報告

支部山行14-40 県境縦走27

奥山峠～原山峠～天引峠～船谷山～深山
若林朋世

2日間、朝は霧が出るが、昼前には晴れる過ごしやすい天気だった。それでも昼頃には少し汗ばむくらいの気温になった。コースは起伏も少なく、比較的歩きやすいコースであった。ただ深山へ近づくまでは倒木があり、やや歩きにくい箇所もあった。

3月21日(土)晴

兵庫県・京都府境の奥山の復帰点までは園部駅からタクシーを使った。最初の急登を過ぎると後は平坦な道が続くが、見晴らしは木で覆われ始終悪い。

出発から一時間ほどで大藤分岐を通過、P434を過ぎて再び大藤への道に出会う。分岐からすぐに「よが谷」の四等三角点を踏みP476を通過、県境から少し外れた三国岳に向かう。三国岳(507.9m)を過ぎるとオータニ広尾CCの東縁に沿って歩く事になるが、木立に遮られてゴルフ場は見えない。倒木が多く歩き辛い県境を辿りP437へ到着。さらに「新綾部線100」鉄塔を過ぎれば急な下りになる。最後はロープを結んで急降下して原山峠に到達し、ゴルフ場入口で待機していた送迎バスで「大谷にしき荘」へ向かった。

3月22日(日)晴

送迎バスで原山峠に戻り縦走を再開した。しばらく緩やかな登りだが視界はあまり良くない。倒木は少なく歩きやすい。40分程で「101」鉄塔を通過し、P376を過ぎ中原山分岐へ。南下した後、南西へ進路を変えると視界が開ける。南に深山の雨量観測所が小さく見えた。

P446を越え、「丹波線64」「65」の鉄塔を通過して天引峠に到達。峠の脇から水の流れる音が聞こえ癒される。小休止の後、道の左手に鎮座しているお地藏様に見送られて再び稜線に取り付く。途中、マンサクが咲いていたが、キブシは蕾だった。「66」鉄塔を通過し、西野々山(509.8m)へ到達した。下るとすぐに「68」鉄塔である。P489からは南に深山の雨量観測所が見えるが、今までよりだいぶ大きく見え目的地が近付いたことを実感する。

満燈山(566m)まで来ると、「ささやまの森公園」からの道が合流し、道標も多数あり案内表記に従って歩けば迷う心配はない。P526付近には蛇岩があった。ここから深山まで登りが続くが整備された道は歩きやすい。京都・兵庫・大阪の三府県境でもある船谷山(730m)からは、緩やかな開けた登りになり深山に辿りついた。深山の三角点は深山宮の敷地内にあり立入禁止なので手に触れる事は出来なかった。深山から左手にるり溪GCを見ながら下る。県境離脱直前に雨が降り始め雷雨となったが、



深山頂上の深山宮と雨量観測所 写真提供：重廣恒夫

すぐに迎いのタクシーが来たので事なきを得た。

【コースタイム】

21日 県境復帰点09:00—10:45△よが谷—12:30三国岳
13:00—15:30原山峠

22日 原山峠07:40—10:50天引峠11:10—14:35船谷山—
15:20深山—16:15岡牧場

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 新本政子 黒田記代 久保和恵
野村珠生 橋本圭之輔 松仲史朗 山本義博 (会友)青
木昭 (会員外)立野里織 若林朋世 (22日のみ)村田か
おり 21日12名 22日13名

<p>支部山行15-1 桜を愛でながら白亜の大天守白鷺城を見よう！ 男山(59m)</p> <p style="text-align: right;">山内幸子</p>
--

4月9日(木)晴

白亜の白鷺城とも言われている姫路城大天守は築城から400年以上の歳月が流れた。時代ごとに改修を重ねてきたが、芯柱が傾き始め、放置すると倒壊する恐れが起きたので、昭和31年から「昭和の大修理」が始まった。昭和39年に完成してから45年が過ぎると、漆喰壁等の傷みも目立ってきたので本格的な修理が必要となった。平成21年から工事が始まり、このたび晴れて大修理が完了し、本年3月27日から漆喰壁の眩しい大天守の一般公開が始まった。

つい13日前に真っ白な姿を公開したばかりの白鷺城を四方から満開の桜と一緒に眺めようという、贅沢な山行なので心わくわくさせながら姫路に向かう。お城を真正面に見ながら大手前通りを歩く。大手門が近くなると大型バスが行き交い、何処からともなく多くの人が集まってくる。その間を縫って桜の中に浮かぶ姫路城をカメラに収める。城内には入らず、好古園の西側を巡る千姫の小径をそぞろ歩きで清水橋を渡り、男山(標高59m)山麓の水尾神社に向かう。神社に参拝し、急な階段を登って千姫天満宮、男山八幡宮にも詣で、姫路城を西から撮影する絶好のポイント、男山配水池公園に立つ。初めて出会う小天守を従えた大天守の姿に、感動しながらしばし時の立つのを忘れて眺める。遥か向こうには城下の街並みと瀬戸内に家島群島が浮かんで見えた。北側の姿を見ようと裏階段を下りて、水路に垂れる桜と天守を撮って、大天守を北から眺められる一等地シロトピア記念公園の芝生で花見の宴を楽しむ。

東へ回る途中、博物館の外壁に映る姫路城の姿を撮影し、新緑が映える美術館の前庭から凜とした五層の姿に心惹かれながら先へ。ちょうど、お城の完成を記念して動物園が無料開放だったので久しぶりに象やキリンさんに会って童心に返り、式場衣裳の新婚さんにも記念撮影に付き合ってもらおう。三ノ丸広場から全体の姿を写真に収め大手門を通り、ユルキャラ「しろまるひめ」に見送られながら駅に向かう。桜満開の中、化粧直しを終えた白鷺城を四方から眺める山行を終え解散となる。

いい山行企画を提案して下さった須磨岡さんお世話になりました。

【参加者】

須磨岡輯 井関正裕 魚津清和 大塚宏暎 大塚和子
金井良碩 久保和恵 戸島泰三郎 松波幹夫 松村文子
宗實慶子 宗實二郎 森沢義信 山内幸子 (会友)浅田
博三 岐部明弘 黒岩敦子 蓮川博凡 横山規江
合計19名

【コースタイム】

姫路駅10:00—10:20姫路城前—10:47水尾神社—10:55千姫
天満宮・男山八幡宮—11:00男山—11:35シロトピア記念
公園13:35—14:50大手門—15:05姫路駅



外壁に映る姫路城 写真提供：山内幸子

<p>支部山行15-2 ゆるやか山行【里山探訪】 歴史と文化を訪ねる22 高仙寺～泉南・飯盛山</p> <p style="text-align: right;">山内幸子</p>
--

4月16日(木)晴

孝子駅に「第二阪和国道工事のため岬公園には下りられません」というお知らせ板があり、駅前辺りも以前近畿分水嶺で歩いた時と様変わりしていた。

まず高仙寺へ向かう。階段を上り山門前で体操をして



飯盛山山頂 写真：中島隆

葛城28宿の高仙寺の境内に入り森沢さんの説明を聞く。奥に進み山道に入ると飯盛山登山口の標識がある。秋分の頃、西に沈む太陽を見に来る人が多かったと書いてある看板が倒れている展望のない高野山(カノヤマ)を通過し、整備された登山道を東に進み、反射板を越え藤戸山に到着。ここで昼食タイム。午後、札立山への分岐を越え北に進み千間寺跡あたりの鳥居を見て飯盛山へ。北に開けている展望台から関空や海岸線に広がる多奈川、岬町、大阪平野を眺め記念撮影の後、信浄院を越え淡輪への道に出る。シダの多い谷沿いの道を下る。120cmの花崗岩でつくられた大阪府でも珍しい建武地蔵を過ぎると西谷寺に入っていた。休憩の後、淡輪駅まで車通りの少ない道を歩いて今日の山行を終える。

【コースタイム】

孝子駅10:10—10:26山門前10:40—10:47孝子観音(高仙寺)
—11:23高野山—12:05藤戸山12:47—13:17孝子札立分岐—
13:34飯盛山13:50—14:04信浄院—14:51西谷寺(建武地蔵)
15:04—15:43淡輪駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本政子 上田典子 魚津清和 内田嘉弘 戸島泰三郎 中島隆 橋本圭之輔 平井一正 松波幹夫 宗實慶子 森沢義信 岡田米二 (会員申請中) 岡田輝子 (会友) 秋月修次 浅田博三 岐部明弘 木村早苗 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 横山規江 (会員外) 新井幹子 中村信子 計28名

支部山行15-4 関西支部県境縦走28

岡牧場～横尾山～剣尾山～小和田山～吉野

黒田記代

4月25日(土)晴

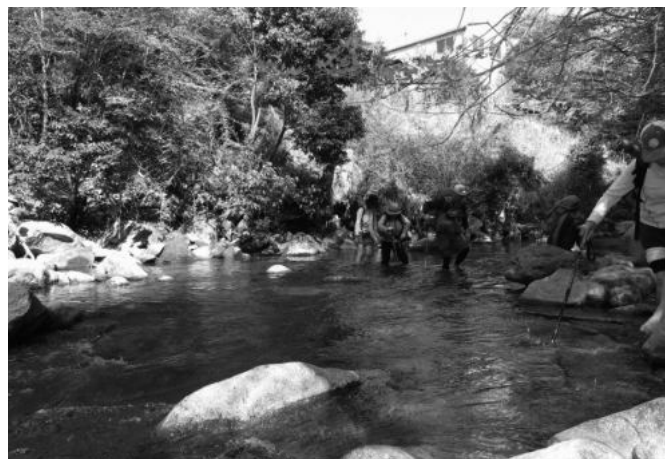
能勢電鉄妙見線山下駅からタクシーで深山手前の岡牧

場に向かった。県境に復帰し、牧場のフェンス沿いに上り、コバノミツバツツジの咲く登山道を南下する。やがて桧の植林帯となるが、鹿除けに樹脂製の保護カバーを付けた幼木多数あり、中には枯れている木も見られた。P716付近は左側がコナラ、右側が桧の林を進む。まだ芽生えず枯れた状態のススキの原に出た。笹原も枯れていて深山のレーダードームや三草山の「棚田」が良く見えた。

右から能勢の郷からの一般登山道と合流し、横尾山を通過。県境から外れているが剣尾山に向かう。剣尾山山頂でゆっくり昼食タイムを過ごす。県境に戻りP719(笠山)から松林を下ってから急斜面を上りP657に出て、青少年野外活動センターの敷地内を進み、大平山(三等三角点二ノ尾)に立ち寄る。

三角点往復後東進し、R54に出て県境を離脱。豊中市立青少年自然の家「わっぱる」に入る。

4月26日(日)晴



渡渉から始まる2日目 写真提供：重廣恒夫

朝から良い天気ですぐ暑くなりそうな中、大路次川の徒渉から始まる。R54沿いを流れる宿舎前の川を裸足になって徒渉(膝下の水位)し、小和田山に向かう。山頂では緑豊かな芽吹きの中ゆっくりと昼食休憩を取った。その後笹が覆いかぶさる間道を通り、R477(ひいらぎ峠)に出る。そこには「吉野の関跡」の説明看板があった。再び取りついた尾根の四等三角点吉野は、ピーク手前の急斜面に設置されていた。

能勢変電所を東側から回り込むように犬飼川手前まで急斜面を下り、県境を離脱する。その後道路を能勢変電所入口のR477まで歩き、タクシーで日生中央駅に出た。

【コースタイム】

25日 県境復帰点08:44—10:53横尾山—11:53剣尾山—
14:43大平山—16:06わっぱる

26日 わっぱる08:25—08:32県境復帰点—11:43小和田山

—13:07ひいらぎ峠—13:48△吉野—15:41県境離脱点—
16:42 R477能勢変電所入口

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 久保和恵 黒田記代 野村珠生
橋本圭之輔 松仲史朗 村田かおり (会員申請中)岡田
輝子 (会友)青木昭 松村竹次郎 (会員外)若林朋世
(25日のみ参加)新本政子 辻和雄 25日14名 26日12名

支部山行15-5 4000山グランプリ

5月9日(土)・10日(日)実施予定の「赤堂山から多
子津山」は、都合により中止しました。

支部山行15-6 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる23

湖西・阿弥陀山

久保和恵

5月14日(木)晴

「オオイワカガミの花が美しい阿弥陀山」、比良山系北
端にあたる山として興味があつた。

JR近江高島駅から40人乗りのコミュニティバスの配
車にあずかり、30人という大所帯が悠々乗車できた。上
寺バス停で下車し、目の前の田中城跡の案内板に従って
鹿除けフェンスの扉から登山道へ入る。10数分で小祠の
金刀比羅宮に着く。この辺りからオオイワカガミの群落
が目立ち始めるが花は終わっていた。標高200mほどの
田中城天守閣跡に来ると東の方角が開け、琵琶湖畔の田
園風景の明るさにほっとする。この先は鬱蒼としただ
っ広い尾根で踏み跡も薄く、造成地入口までは地形図と
コンパスが必要だ。放置された造成地の道路を北西に突
き当り再び山中へ。踏み跡を頼りに歩を進め、八田川支
流に降り立つ。太山寺城址は時間の都合で割愛。上流に
進み東側の林道に入る。突き当たり太山寺集落からの登
山道との合流地点で昼食。その後はしっかりした登山道
に導かれ阿弥陀山(453.6m)に到着。山頂でサプライズ!
欠席だと思っていた中島さんと遭遇、全員集合となった。

堂々の一等三角点を後にして、復路は谷を挟んだ西側
の尾根を下る。最後に50mの急下降に息をのんだが全員
無事に下山、八田川沿いの農道を横山バス停に向かった。

オオイワカガミの花の最盛期になると阿弥陀山の登山
道は終始ピンクロード、きっと素敵な山歩きが出来ると
お勧めの山です。

【コースタイム】

JR近江高島駅09:09=上寺バス停09:50—10:14田中城天守
閣跡—11:50太山寺城址分岐—12:03 登山道合流点(昼食)
12:32—13:01阿弥陀山13:19—14:42八田川沿い林道出合—
15:15若宮神社—15:35横山バス停=16:00JR安曇川駅

【参加者】

山内幸子 新井浩 新本政子 上田典子 魚津清和 内田
喜弘 内田昌子 浦上芳啓 金井健二 阪下幸一 嶋岡章
戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 野村哲夫 橋本圭之輔
秦 康夫 平井一正 廣瀬健三 松上美代子 松波幹夫 山
下政一 久保和恵 (会員申請中)岡田輝子(会友)秋月修
次 浅田博三 岐部明弘 黒岩敦子 蓮川博凡 横山規江
(会員外)新井幹子 計31名



山頂で勢揃い 写真提供：魚津清和

**支部山行15-7 関西支部県境縦走29
犬飼川～杉原～峯～鴻応山～牧**

山内幸子

5月16日(土)曇

雨が上がったばかりの中、参加者が4人なので山下
駅からタクシー1台で能勢変電所のゲートまで行く。県境
を通るので犬飼川まで下り、体操を済ませウエストベル
トを着けて支流を越えて対岸に渡る。犬飼川の突端から
濁流と化した川を眺めて、山に取りつく。この急登は半
端ではなくみんな四つん這いになって登っていく。30分
ほど登ると少し緩くなり休憩し流れる汗を拭く。ここ
から楽に歩けるようになる。ツツジが咲き残りの花をつけ
ておりヒサカキやカエデ類、クロモジ等の葉が茂りうっ
そうとしてきているが気温は高くないので気持ちよく歩
ける。近畿自然歩道と合流しすぐ先に「福龍寺別当法堂
坊跡」の石碑があった。通称、「堂とこ」と書いてあ
ったので宿坊のことを堂床というのかもしれないと話し合

った。近畿自然歩道になると道が広くはつきりするが離れるとまた踏み跡を辿るような細い道になる。道路に沿って張り巡らされている金網に沿って東に進み何とか道路に下り府道723に出て南に方向を変える。田んぼや植林帯に入ったり草むらの中を歩いたり猪除けのトタンをまたいだりと方向を替えながら東から西に、そしてまた南西にと里山の裾を大きく振りながら曲がりくねっている県境を忠実に辿ろうとして苦勞する。県境を離れ杉原城跡でもある仏称寺まで歩きタクシーで日生中央駅に向かう。

5月17日(日)晴

今日は8名2台のタクシーで仏称寺に向かう。農道を歩き分水嶺に復帰し山道へ入るがすぐにフェンスに阻まれる。そこを越え植林帯に入るとお墓や古い受水槽がある。P553を越え南下して平地に下り谷沿いの道を進み尾根に取りつき南東に進む。三等三角点峯への分岐から広い尾根を北上し三角点で昼食をおねだりしているような鳥の声を聴きながらいただく。

午後分岐まで戻り南東に進みP549八王山から東に向きを変え竹林の中を下り金網と格闘しながら神地に出る。大阪府と京都府の境界であるので石の道標や妙見山の供物田という石標もある。木陰で小休止して鴻応山に向かうが竹林の中を金網を越えたりネットをくぐったりトタンの塀を越えたりしながら苦勞してやっと山裾に出て県境を登っていく。鴻応山は植林帯の中にあり展望はないが広いのでゆっくり休憩できる。下りも最後にトタンとネットの塀を越え牧に出てバス停で行程終了となる。

今回は細く背の高い木々に囲まれた樹林の中を歩いたので暑くはなく快適だった。1ヵ月前と比べると新緑から緑へと深みが増し枝が垂れるほど葉が茂り植物の成長の速さに改めて驚かされた。



大阪と京都の府境神地に下り立つ 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

16日 能勢変電所林道ゲート08:40—09:24犬飼川県境復帰点—10:43近畿自然歩道合流点—10:52福龍寺別当法堂坊跡—10:57P545—13:07府道723—14:08県境離脱点—14:30仏称寺

17日 仏称寺08:45—県境復帰08:54—09:45P553—11:42三等△峯—13:23神地—14:51鴻応山15:06—16:20牧バス停

【参加者】

重廣恒夫 橋本圭之輔 山内幸子 (16日のみ)黒田記代 (17日のみ)新本政子 前田正彰 宗實二郎 (会友)青木昭 (会員外)立野里織 16日4名 17日8名

支部山行15-9 4000山グランプリ 六万山・釈迦岳・四塚山

松仲史朗

6月6日(土)曇

えちぜん鉄道勝山駅よりタクシーで市ノ瀬に到着。虫除けクリームを塗り万全体制。まずは出発点の砂防林道ゲートより六万山登山口を経て、マイズルソウ、ユキザサの白色の花々を觀賞しながら六万山を目指す。癒しのブナ林の六万山には展望はない。林道分岐の六万山登山口まで引き返し湯谷林道より1.5km先の白山釈迦岳登山口へ向かう。落石防止抗を抜け、すごい勢いで雪解け水が流れる湯の谷川を渡ると釈迦岳登山口。休憩後、釈迦岳前峰、白山釈迦岳、テント設営地の湯の谷乗越を目指す。釈迦新道は明瞭で歩き易く、白樺によく似た樹皮が剥がれる木肌のダケカンバの森の中、新緑も清々しい。ツマトリソウ、キヌガサソウ、ツバメオモトの花が咲いている。

展望がある釈迦岳前峰に辿り着く。ガスの中から白山頂上御前峰と大汝峰が湯の谷を隔てた目の前に広がっている。展望を觀られ満足である。白山釈迦岳付近にはミネザクラが咲いていた。夕方、ようやく湯の谷乗越に到着。

6月7日(日)晴

カッコウの鳴き声で目が覚める。アイゼンを装着し出発。好天に恵まれ御前峰・剣ヶ峰・大汝峰の展望に気分は最高。縦走路には多くの花が咲き乱れ心が和む。ルンゼに食い込む急な雪渓をトラバースする箇所が何箇所か出て、その都度アンザイレンし、アイゼンを着脱した。七倉山分岐には予定より2時間も遅れて到着したため、予定の白山一里野への下山は断念。室堂平、別当出合のコースに変更することになった。それでも四塚山、七倉

山の頂を踏んだ。四塚山の展望は良かったが、這松の藪漕ぎで辿りついた七倉山は展望がなかった。

大汝峰北分岐より大汝峰西回りで大汝峰南分岐に到着。室堂平まで残雪があった。室堂センターでアイゼンを外す。弥陀ヶ原を過ぎ、殿ヶ池避難小屋の前には17時に到着。タクシーを予約し、足元に気をつけながら下山を急ぐ。それでも途中で日が暮れ、ヘッドランプを点けてようやく別当出合に到着した。20時20分、駐車場で待機していたタクシーに乗り込み勝山駅へと向かった。福井駅発大阪方面の最終特急は終わっていたため、やむなく福井に泊まり翌朝帰宅した。それでもお花畑は期待以上の百花繚乱、雪渓を抱いた山塊の眺望は絶佳で、充実感のある山行であった。



白山頂上を見ながら釈迦岳前峰で寛ぐ 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

6日 砂防林道ゲート09:01-09:13六万山登山口-10:02六万山-10:40六万山登山口-11:41白山釈迦岳登山口-13:21水飲場-16:08釈迦岳前峰-16:41白山釈迦岳-17:35湯の谷乗越

7日 湯の谷乗越04:27-09:32七倉山分岐-10:19四塚山-11:30七倉山-12:46御手水鉢-13:35大汝峰北分岐-14:32大汝峰南分岐-15:18室堂-15:59弥陀ヶ原-16:59殿ヶ池避難小屋-18:34別当出合分岐-20:18別当出合

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 立野里織 野村珠生 松仲史朗
計5名

支部山行15-10 ゆるやか山行【里山探訪】 歴史と文化を訪ねる24 北摂西部・大岩ヶ岳

岡田輝子

6月11日(木)

JR道場駅に集合。どんより曇り空のもと、念入りに準備体操をする。浄水場までは武庫川沿いのアスファルト道を20分、そこから支流の波豆川に沿って歩くこと10分、巨大な千苺ダムが見えてくる。ゴー音が轟く。高い水門から全斜面いっばいに滑り落ちる放水、渚のような、レースのカーテンのごとく美しい。放水の迫力に圧倒される。ダム下部の架橋を渡りながら、自然と深呼吸。これより苔むした岩ゴロの急坂をひと登り。傾斜が緩むと優しい山道が続く。千刈水源を時折眼下に望みながら、まさにゆるやか山行。いつ降り始めるかと空模様を気にしながら、大岩ヶ岳の岩尾根の登りにかかる。手前のピークの奥に本当の山頂がある。下って登り返し。かなり急な岩場を登り切ると頂上。眺めは素晴らしい。三田市、宝塚市、西宮市、神戸市に囲まれた大展望の山頂にて、久保CLより慣れ親しんだ山々の名前を同定して頂く。

昼食を楽しんだ後は、丸山のある東方向へ下山、ここも急坂。雨具を着たり脱いだり忙しい。丸山分岐からは、気持ちの良い自然林の中を歩く。里山だけに縦横に道が交差している。途中で砂山が現れ、広々と開放感を味わうも雨模様で立ち休憩のみ。その後、登り下りを繰り返して東山橋に到着。ここからは、朝来た武庫川沿いの道を談笑しながら道場駅に向かう。天気は今一つなるも、山は新緑青々と、気分は晴れやかな一日に感謝。



大岩を越えて頂上へ 写真提供 魚津清和

【コースタイム】

JR道場駅09:45-千苺ダム10:16-11:36大岩ヶ岳(昼食)
12:28-12:37丸山分岐-13:55東山橋13:55-14:15JR道場駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子 阪下幸一 嶋岡章 平井一正 廣瀬健三 松村文子 (会友)秋月修次 木村早苗 小林三喜男 黒岩敦子 田中アキエ 横山規江 (会員外)佐藤知仔子

計18名

支部山行15-11 ベニバナヤマシャクヤク鑑賞
大峰山系 観音峰

岩崎しのぶ

6月20日(土) 曇

檀原神宮前駅ロータリーで久保・中島両氏の車に分乗して観音峰登山口へ。バス利用の松村さん到着を待ち出発。今日のコースは南北朝時代の歴史の宝庫だ。吊り橋を渡り登ること10分、観音の水で喉を潤す。ここから3つの小さな沢を越え東屋で小休止。少し登ると岩屋への分岐、折角だから寄り道をする。護良親王が隠れ潜んだという岩屋は中に仏像が安置されている。分岐に戻り、ひたすら登ると石塔の立つ観音平だ。2年ほど前からここにロープが張られた。ベニバナヤマシャクヤクを持ち帰る人や、苗を踏み荒らす人が絶えないためだという。撮影しにくくはなったが、保護のためには致し方ない。ベニバナヤマシャクヤクは丁度見頃で、鮮やかなピンク色が緑の中にひときわ映える。

天気なら大日山～稲村ヶ岳～バリゴヤの頭から弥山へ

の大パノラマが楽しめるのだが、生憎今日は雲の中だ。昼食を済ませ、三ツ塚を越えて法力峠から洞川温泉へ下る。タクシーがなく登山口まで約1時間歩くことになった。梅雨真只中ながら雨にも降られず、色んな収穫ありの楽しい山行だった。

【コースタイム】

観音峰登山口10:32—10:45観音の水—11:22東屋—11:44岩屋—12:04観音平12:30—13:14観音峰—13:52三ツ塚—14:45法力峠—15:31母公堂分岐—15:58ごろごろ水16:16—17:14観音峰登山口

【参加者】

久保和恵 新本政子 魚津清和 中島隆 松村文子 森澤義信 岩崎しのぶ (会友)浅田博三 黒岩敦子 横山規江 計10名



命を繋ぐ絶滅危惧種 写真提供：魚津清和

80周年記念海外登山 西穂高岳北西尾根合宿報告

黒田記代

5月3日 晴

新穂高ロープウェイ駅上の車止めゲート前に集合し共同装備を分担後、歩き始める。すっかり雪が融けた林道を穂高平避難小屋まで進み、休憩後西穂高岳北西尾根取付まで進む。所々雪の残る笹藪を登って行く。踏み跡がなんとなくある。やがて密な笹藪となり傾斜も急になってきたので、アンザイレンする。高度が上がっても予想に反し、雪が無い。4月の雨で融雪が進んでいるようだ。高度が2000m近くになってようやく雪面が続くようになる。テント4張分の平地が現れたので、2004m地点をテントサイトと決め、本日の登りは終了。それぞれテントを設営し、水作りなどして休憩後、予定の講習会を実施した。

・テントサイトでの講習会

- 1)テント設営技術
- 2)ビーコンの使用方法
- 3)ヤマモリの使用方法
- 4)雪崩で埋没した時の掘り出し方法

5月4日 曇のち雨

トレーニングで使用する登攀装備を担いでテントサイト出発。アイゼンを装着し、雪の斜面を上る。急な雪面になってきた所でアンザイレン。4班に分かれ、それぞれタイトロープで西穂高岳山頂を目指す。

高度2450m付近まで登った所で、重廣支部長から「空模様が怪しくなってきたので、登頂を断念、西穂山頂まであと500m地点、ここでトレーニングをする」とのコメントがあった。

トレーニングメニューをこなしている内、雨が降り出す。雨にも負けずトレーニングを続行。ますます雨足が激しくなってきたので13時頃トレーニング終了し、テントサイトに戻った。

・トレーニングメニュー

1)ユマーリング技術

①立木、スノーピケット、スノーフレック、ピッケルを利用しての支点構築

②登降器(アッセンダー)のスリングの長さ調節
安全確保のためのスライダの準備

③登下降の練習

エイト環で懸垂下降 アッセンダーで登る

2)スタンディングアックスビレー

①支点構築の注意点

②ビレー姿勢

③ランニングビレー(制動力のコントロール)

3)タイトロープ

トレーニング場所まで、実践しながら登る

5月5日 晴

テントサイトを後に下山開始、残雪の斜面を下る。残雪も無くなり笹藪となった所でアンザイレン。下りの笹藪は滑りやすく、下山ルートもわかりにくくなる。密生した笹に足を取られ何度か転んだが、アンザイレンのおかげで事なきを得た場面もあった。休憩を一度はさみ北

西尾根取付の林道に無事下山した。

五月晴れの気持ちいい林道を穂高平避難小屋まで歩く。全員での記念写真撮影後、第三駐車場に向けて歩く。

第三駐車場で全員集合。共同装備の返却、登攀道具類の整理、濡れた物の乾燥などにゆっくり時間を取った後、平湯の温泉へ向かう。入湯、昼食後、平湯で解散。各車帰宅した。

【コースタイム】

2日 神戸三宮駅(4名)、大阪駅前(5名)、近鉄学園前駅(2名)から3台の車で新穂高温泉第三駐車場に集合(仮眠) 東京から夜行バスで新穂高温泉バスターミナル早到着(1名)

3日 新穂高ロープウェイ駅上の車止めゲート06:19—07:47穂高平避難小屋—08:46北西尾根取付—14:16P2004テントサイト—テントサイトにて講習会

4日 3:30起床—出発05:00—高度2450m付近でトレーニング—14:00テントサイト帰着

5日 3:30起床—テントサイト05:30—09:00北西尾根取付—09:34穂高平避難小屋—10:26新穂高ロープウェイ駅上—10:46第三駐車場

【参加者】

重廣恒夫 山本一夫 立野里織 黒田記代 野村珠生
高木稔 松仲史朗 竹中雅幸 辻和雄 清瀬祐司 岩井賢助 加藤芳樹 計12名

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

秦 康夫

2015年4月2日(木)9:30~15:00

近畿中国森林管理局長と公益社団法人日本山岳会関西支部長との第二次(27~31年度)「社会貢献の森協定」締結が終了し、新年度の活動に入った。27年度は「大阪さともり地域協議会」交付金対象地の8.5haを中心につる切り、枝打ち等も含め、林床全体の整備を進める予定。今日は、45林班「ろ4」地区東斜面の林床整備を行った。植林帯・自然林境界周辺に残る太い松の枯損木伐倒処理に時間を取られたが、かなり広範囲の林床整備が進み、急斜面の要所々々に土留めの集積ができた。

【参加者】 宮本廣 斧田一陽 武田壽夫 薦田佳一 丸山喜代司 秦康夫 計6名

2015年4月29日(水・祝)9:30~15:00

前回に引き続き45林班「ろ4」地区の林床整備作業と、登山道として利用されている里道及び45林班最上部の作

業道の整備を行った。登山道に倒れ込みそうな危険木や周辺の枯損木数本を処理した後、作業道に横たわる太い丸太類や枯れ木類を片づけ、45林班上部の作業道は、一見登山道と見紛うほどきれいな尾根道になった。

【参加者】 宮本廣 斧田一陽 阪下幸一 薦田佳一 丸山喜代司 猪川誠 真子和久 小櫃徹夫 杉本佳英 秦康夫 計10名

2015年5月7日(木)9:30~15:00

今日はカシナガ(カシノナガキクイムシ)によるナラ枯れの防止策として、作業地内に生育するコナラの木に、ビニールシートの巻き付け作業を行った。カシナガは体長5mm位の昆虫だが、6月~8月頃羽化した新成虫が風に乗って大量に飛来する。大径の広葉樹(ナラ、カシ類)に付着し、穴を開けて内部に潜入、産卵するのだが、同時に持ち込む病原菌のナラ菌がナラ枯れの元である。繁

殖したナラ菌が樹木の細胞を破壊し、死んだ細胞が目詰まりを起こして通水障害をもたらすため葉は茶色くなり、木は枯死してしまう。

カシナガの飛来を防止するため、また、既に入り込んでいるカシナガを閉じ込め外部への拡散を防ぐため、持参した濡れタオルをコナラの幹に高さ120cm程度まで巻いてから、その上に透明のビニールテープを巻き付ける。午前44林班「い」地区東海自然歩道沿い、午後は物置小屋周辺、併せて30数本のコナラに処置を施した。ナラ枯れの被害は全国規模で広がっているが、この本山寺山はなんと守りたいたいものである。

【参加者】 宮本廣 斧田一陽 阪下幸一 武田壽夫 杉本佳英 秦康夫 計6名

2015年5月17日(日)9:30~16:00

大阪府森林組合三島支店高槻事業所の是枝巨将氏を講師に迎え、チェーンソー取り扱い方法の講習を受けた。午前中、チェーンソーの仕組みと使用方法等の説明を受け、午後は、各自実際にチェーンソーを使用して、倒木の玉切りと枯損木伐倒処理の実習をした。チェーンソーを使えば手ノコ作業とは比べ物にならない位効率がいい反面危険度が高い。作業はなんといっても安全が第一。安全に使いこなせるには、まだかなりの日時を要する。

【参加者】 阪下幸一 小櫃徹夫 宮本廣 斧田一陽 武田壽夫 黒山泰弘 丸山喜代司 倉谷邦雄 猪川誠 福井誠 中村賢三 薦田佳一 秦康夫 計13名

2015年6月4日(木)9:30~15:30

45林班「ろ4」地区の作業道及び原大橋バス停からの登山に利用されている里道の整備を行った。作業道とその周辺の落枝や倒木の片づけ、邪魔になる灌木類の伐採整理をしたあと、周辺の枯損木の伐採を行った。この辺り一帯は松林だが、マツクイムシにやられたのか、松の枯木が極めて多い。手ノコと新兵器のフェリングレバー(伐倒作業用の幹回し機)や梃子、ロープを駆使して30本程度を処理した。

【参加者】 阪下幸一 斧田一陽 武田壽夫 倉谷邦雄 中村賢三 薦田佳一 秦康夫 計7名

2015年6月21日(日)9:30~15:30

高所の枝打ちは、梯子やアルミステップを使い木に登ってするものだと思っていたが、会で高枝鋸という便利な道具を調達してもらったので、早速実地で試してみることになった。伸縮式になっていて、伸ばせば5m位の高さになる。ノコギリの切れ味は鋭く、面白いように作業が進み、今まで気になっていた高所の枝(枯れ枝も多い)が切り払われて、作業済みの林間は極めてスッキリした。

近辺の東海自然歩道には随所に水切り溝が設置されているが、土や落ち葉で埋まってしまうたり、流土が盛り上がり隠れてしまったりして、水切りの用を成さないものが殆んどである。枝打ち作業の傍ら5~6箇所の水切り溝の、整備、掘り起こし、新設を行った。

【参加者】 斧田一陽 猪川誠 小櫃徹夫 倉谷邦雄 薦田佳一 須本淳史 福井誠 丸山喜代司 宮本廣 秦康夫 計10名

回想：大賀さんと好日山荘

赤山伸夫

大賀壽二さん(1922-2015)の訃報を受けたのは6月24日の朝でした。今年年賀状が来なかったのでどうされたのかなと気にはなっていた。そのうち電話をしようと思っていたところ、元大阪府山岳連盟理事長の藤木健策さんから電話があり、亡くなられたことをはじめ知りました。

私と好日山荘とのお付き合いは、昭和25、6年頃からだだったと思います。その頃、店では大賀さんの姿は余り見かけなく、スキーのことは水口さん、山のことは美濃井さんなる人達が店を扱っておられた頃でした。当時、この人達に山の話をする、この店にも山の会があるから入会したらどうですかと誘われ、私が入ったのが「関

西山岳会」でした。昭和29年の始め頃で、店は梅新の御堂筋に面した協銀ビルの三階にあった頃です。その後、昭和32年に好日山荘は御堂筋の東側から少し入ったところの老松町に引っ越しされました。一階の店の奥には広い部屋があって便利な所でした。この店には、日本山岳会関西支部の諏訪多栄蔵さんや岸田権二さんらが度々お見えになっておられ、楽しそうな姿をたびたび拝見していました。

大賀さんが関西山岳会に入会されたのは昭和16年の2月で、その頃は、登山の形が「錬成登山」という名称になってきたようで、篠山から大阪まで歩くとか、大阪から生駒を越えて奈良まで歩くとか、山も街も戦時一色に



塗り込められて、世間をはばかりの山行きであったようです。

やがて、大賀さんにも召集令状がきて戦場へ向かわれることとなり、復員して

帰ってこられたのは、結局、昭和20年10月であった。戦災で家は焼けてしまっており、食糧もなければ金も無く、大変な時代であったようです。大賀さんは昭和19年の夏に一度軍隊から帰ってきて、8月末に涸沢に行ったらテントも見えず人影もなかったと云っておられます。同年暮れから翌20年正月に志賀高原に行った時は、もうこれが最後のスキーかと思ったそうです。

時は過ぎて、登山装備に変化が出だした昭和26年の関西山岳会の剣の合宿では、大賀さんはチンネもジャンダ

ルムも、まだ、トリコニーの鋏靴で登ってました。が、翌27年の涸沢では、この年にできたビブラム底の山靴を履いて登った。そして、昭和30年は新しい用具と古い用具との入れ替えの時期でもあったと言えます。

又、フランスから日仏山岳親善使節として国立登山スキー学校初代校長エドワード・フレンドさんの来日がありました。マカルー隊の準備とPRのため、当時ヨーロッパで使用されている用具の数々を持ってこられて高島屋で展示会を催された。フレンドさんはガストン・レビュファの先輩に当たる人で、好日山荘はフレンド氏と契約して日本に初めてシャレルやシモンの穴あきピッケルやアルミのアブミプレートとか、ナイロンのヤッケや羽绒服、ナイロン・ロープ等を輸入された。これにより、今までの古い装備を使った旧態依然としたスタイルから登山の新しい時代へと変わっていきました。

このように、大賀さんは戦前から戦後の登山界を生き抜き、戦後のヒマラヤの黎明期から日本の登山界の黄金時代にかけて装備の面を通じて貢献された数少ない方だと思います。

大賀さんのご冥福をお祈りいたします。合掌

■□■ 自己紹介

自己紹介

橋本圭之輔

私と山との出会いは中学生の時、近所のお兄さんに六甲へ連れてもらったことが最初です。自然とは縁のない大阪城の見えるところで生まれ育ったので山道を駆け巡ることが楽しく、その後も同級生と六甲へ度々出掛けました。

高校へ入ると山岳部があり早速入部、登山との付き合いが始まりました。当時、マナスル遠征がスタートし第一次登山ブームのころで大いに意気が上がっていました。

わが住吉高校山岳部は新制高校一期生が発足させたのですが、山の経験のある先生がいなくて旧制中学の卒業生で同志社大学山岳部OBの鶴尾さんに監督を依頼し、OBと生徒だけで計画、実施していました。学校側の規制が緩かったのか計画も尖鋭的で、夏の剣沢合宿では私もチンネの中央バンドをOBと登らせてもらったほどです。こんな経緯があるので、OBには生徒を指導する役目が要求され大学の4年間は高校生との合宿に付き合ってきました。しかし、高校生との山行では物足りないの



で、別にOB山岳会を創り雪と岩を目指していましたが、5月の鹿島槍北峰南稜で相棒が滑落、辛うじて一緒に落ちるのは免れましたが、両手にヤケド傷を負い岩登りが

出来なくなりました。当時はうまく行くと次は何処に登ろうかと前のめりになっていました。今から思うと体力も技術も優れていたわけではなく何れ破綻することになっただろうと思うと、この事故は誠に幸運であったと思っています。

卒業後は仕事、酒、ゴルフ、マージャンの毎日で体に悪いことばかりの生活を50年続けることとなります。それでも親のおかげでしょうか病気になることなく仕事も卒業。これから何をしようかと言う時に住高山岳部後輩の元アシックス監査役の森井君の引き合わせで重廣支部長と出会うことになりました。

以来、重廣支部長とは2002年三県境の笈ヶ岳から始まり、ラウンド琵琶湖、4000山と日本山岳会の企画山行に支部長を煩わせながら10年近くもお世話になっていたにもかかわらず会員外であったことに気がつき、これでは電車のただ乗りではないかと慌てて2011年に入会いたしました。

昔は、山は雪と岩という思いで、京都の北山とか藪山など全く興味はありませんでした。しかしラウンドやグランプリで経験した藪の凄さには驚くとともに新しい魅力も知りました。まだ登っていない山はたくさんあり、リベンジしたい山もありますが、今の心境は何処そこの山に登りたいと言うよりも、素晴らしい仲間と一緒に静かな山の中に居るだけで満足出来ます。体力の衰えは仕方ないが、トレーニングの励みにするため10年前から80-20(80歳まで20本の歯を残すではなく、80歳まで20kgの荷物を担げる)という看板を上げていました。実現出来るか自信はありませんでしたが看板を掲げれば自分へのプレッシャーになると考えたのです。しかし、2010年脊柱管狭窄症の手術をする羽目になりその後、小康を得ましたが2014年再発し2度目の手術。現在リハビリに励んで居りますが80-10に看板の架け替えを検討中です。

これまでこんなに充実した山行を続けることが出来たのは健康に恵まれたことに加え、日本山岳会に入会したこと、多くの良き山仲間にも恵まれた御蔭と感謝しております。あと暫くは頑張りますので皆さん宜しくお願いします。

水曜会について

「水曜会」は最近関西支部に入会いただいた(入会1年目程度)会員・会友の皆さんと、支部委員有志との交流を毎月1回(水曜)に行い、関西支部の活動状況を知っていただくと共に、支部に早く馴染んでいただくための会合です。

支部の行事や山行の紹介を行い、皆さんとの交流を進めています。会員・会友だけでなく、「入会を希望されている方」や「登山教室に参加されている方」も参加いただいています。また、会員の知り合いで参加を希望される方がおられればご紹介下さい。

【会場】 支部ルーム 18:30~

※開催予定日は変更になる事がありますので、参加予定者は開催日の2週間前迄に必ず担当者に実施日の確認と参加連絡をお願いします。

担当者：水谷 透 jacmztn@yahoo.co.jp

【予定】 10月14日(水)、11月11日(水)、12月9日(水)

【報告】

4月15日(水)全国支部懇談会(四国支部)	出席 4名
5月13日(水)ヒマラヤ遠征に向けての(西穂高岳)	
合宿	出席 7名
7月1日(水)「日本登山史を辿る本」	出席 9名

重廣支部長辞任

6月20日に開催された公益社団法人日本山岳会平成27年度通常総会において、重廣恒夫氏が監事に選出されました。これに伴い、同日付で関西支部長を辞任されました。

関西支部規約第12条に基づき、6月21日以降は金井良碩副支部長が支部長代行を務めます。なお、支部長の任期は2017年3月までの2ヶ年でしたが、来年度関西支部総会において新たに支部長選出を予定しています。

Room日録 2015年

5月3日(日) 記念式典受付事務	23日(土) 記念山行リーダー研修会	28日(日) 個人山行打合せ
7日(木) 記念式典打合せ 〔9・10・11・27・29も実施〕	6月3日(水) 総務委員会	29日(月) 郵便物処理
13日(水) 水曜会	4日(木) 募金受付事務〔8も実施〕	7月1日(水) 水曜会
14日(木) 募金受付事務〔21も実施〕 第6回ヒマラヤ塾	11日(木) 第7回ヒマラヤ塾	2日(木) 募金受付事務
15日(金) 記念刊行物出版打合せ	14日(日) 支部報160号発送準備	15日(水) 会計担当者打合せ
19日(火) 拡大総務委員会	15日(月) 蔵書を読む会	19日(日) 郵便物処理
22日(金) 記念式典受付事務	17日(水) 支部報160号第1次発送	27日(月) 本山寺山森林づくり会 誌編集会議
	22日(月) 会計担当者打合せ	29日(水) 記念式典会計打合せ
	24日(水) 支部報160号第2次発送	30日(木) 第8回ヒマラヤ塾
	25日(木) 支部評議員会	
	26日(金) 山行委員会	

受贈一覧

(2015.5.1~2015.7.31受理分)

安全登山ハンドブック：百万人の山と自然：2015 日本山岳ガイド協会
 神々の山を辿る 日本山岳会宮崎支部
 JAC-Tokai guide 2015 日本山岳会東海支部
 雑木林 15号 日本山岳会東海支部猿投の森づくりの会
 東京多摩支部設立五周年記念誌 日本山岳会東京多摩支部

登山月報 第555号 日本山岳協会
 兵庫山岳 第575,576,577号 兵庫県山岳連盟
 日本山岳会支部報
 ・〔青森支部〕会報 第15号
 ・秋田山岳 No.97
 ・宮城山岳通信 第5号
 ・〔福島支部報〕やまなみ 第5号
 ・群馬支部報 第2号
 ・千葉支部だより 第31号
 ・〔東京〕たま通信 第20号

・埼玉支部報 第15号
 ・富山支部会報 No.99
 ・岐阜山岳 第77号
 ・東海支部報 No.142
 ・〔京都・滋賀〕支部だより No.119
 ・JAC Hiroshima 第56号
 ・JAC北九だより No.72・73
 ・熊本支部報 No.34
 ・東九州支部報 第69・70号
 ・宮崎支部報 第52・53号

2015年10月～12月 支部山行計画

※申込先は、後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

15-20 関西支部県境縦走33

日 時：10月3日(土)・4日(日)
 コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
 HP等で確認してください
 備 考：詳しくは申込者に連絡します。
 申込み：9月19日迄 黒田記代

15-21 4000山グランプリ

「滝波山(1412.5m)・蕪山(1068.9m)」
 日 時：10月10日(土)～12日(月)
 コース：郡上八幡駅＝島口－滝波山－21世紀の森－蕪山－郡上八幡駅
 地 図：2.5万分の1「門原」「上ヶ瀬」
 備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行 一般参加可
 山岳保険加入が必須
 80周年記念海外登山のトレーニング山行
 申込み：9月30日迄 重廣恒夫

15-22 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる26

「六甲山系 布引貯水池から森林植物園」
 日 時：10月22日(木)
 集 合：新神戸駅 9時30分
 コース：新神戸駅－布引の滝－布引貯水池－市ヶ原－トエンティックロス－森林植物園東口－森林植物園正門＝北鈴蘭台駅
 地 図：2.5万分の1「神戸首部」
 備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
 歩行距離約8km 歩行時間約4時間
 森林植物園入園料300円必要
 申込み：10月15日迄 久保和恵

15-23 関西支部県境縦走34

日 時：10月24日(土)・25日(日)
 備 考：詳しくは申込者に連絡します。
 申込み：10月10日迄 山内幸子

15-24 4000山グランプリ 四国支部との合同山行

「牛ノ峰・障子山・壺神山・神南山」
 日 時：11月7日(土)・8日(日)
 コース：徳島＝大洲IC－出石山(往復)－壺神山(往復)－サイド公園横テント場泊－牛ノ峰(往復)－障子山(往復)－川内IC＝徳島
 地 図：2.5万分の1「中山」「内子」「砥部」「串」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行 一般参加可
 山岳保険加入が必須
 80周年記念海外登山のトレーニング山行

申込み：10月20日迄 家段勝好と重廣恒夫

15-25 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる27

「宮津街道 普甲峠」
 日 時：11月12日(木)
 集 合：京都丹後鉄道宮福線 辛皮駅 12時
 コース：辛皮駅－元普甲峠登山口－茶屋ヶ成－471m峯－普甲峠－中の茶屋跡－大江山登山口－鬼ヶ茶屋－元伊勢内宮－大江山内宮駅
 地 図：2.5万分の1「宮津」「大江山」
 備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
 歩行距離約11km 歩行時間約4時間
 471m峯までの標高差350m
 申込み：11月5日迄 久保和恵

15-26 わんぱく探検－山の日関連行事

「本山寺山の森にて」
 日 時：11月15日(日)
 集 合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時30分
 自家用車の方は神峯山寺駐車場 9時
 ※担当者のクルマで本山寺参詣駐車場へ移動
 解 散：15時 本山寺駐車場にて解散。車で高槻駅へ
 コース：本山寺駐車場－ポンポン山－本山寺山の森
 午後 本山寺山の森にて森林整備体験
 備 考：8月の「山の日」関連行事
 関西支部の「本山寺山の森」にて森林整備します。森林整備体験だけでも歓迎。お孫さんやご近所の子もさんたちをお誘いください
 申込み：11月5日迄 茂木完治

15-27 関西支部県境縦走35

日 時：11月28日(土)・29日(日)
 備 考：詳しくは申込者に連絡します。
 申込み：11月14日迄 山内幸子

15-28 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる28

「京都一周トレイル 伏見・深草ルート」
 日 時：12月10日(木)
 集 合：京阪電車 伏見桃山駅 10時
 コース：伏見桃山駅－御香宮神社－伏見桃山城－大岩

山展望所－西野山(稲荷山三角点)－伏見稲荷
大社－伏見稲荷駅

地 図：2.5万分の1「京都東南部」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります
歩行距離約10km 歩行時間約5時間

申込み：12月3日迄 久保和恵

15-29 レスキュー講座 1

「山のファーストエイド 心肺蘇生法と応急手当」

日 時：12月13日(日) 9:00～15:00

場 所：大阪市立青少年センター(予定)

講 師：日赤大阪府支部の派遣講師による実地講習会
参加費(1000～2000円)が必要

申込み：12月1日迄 竹中雅幸または黒田記代

15-30 レスキュー講座 2

「講座1を山で活かすために」(座学)

日 時：12月17日(木) 18:30～20:30

場 所：支部ルームビル 3階会議室

講 師：山行委員

備 考：12日の実地講習を山でどのように行かせばい
いか等を話し合う学習会になります

申込み：12月5日迄 黒田記代

15-31 関西支部県境縦走36

日 時：12月19日(土)・20日(日)

備 考：詳しくは申込者に連絡します。

申込み：12月6日迄 山内幸子

15-32 4000山グランプリ

「鷲走ヶ岳(1097m)～白抜山(891m)」

日 時：12月26日(土)・27日(日)

地 図：2.5万分の1「尾小屋」「市原」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

80周年記念海外登山のトレーニング山行
申込み：12月16日迄 重廣恒夫

申込み先一覧

家段勝好	e-mail：k-kadan@gb4.so-net.ne.jp
久保和恵	Fax： 079-565-0530 e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com
黒田記代	e-mail：kuroda@makino.kmu.ac.jp
重廣恒夫	e-mail：tsuneo.shigehiro@asics.com
竹中雅幸	e-mail：melonbar2_22@yahoo.co.jp
茂木完治	Tel：080-3103-6770 e-Mail：yib03510@nifty.com
山内幸子	e-mail：sacchayama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

2stステップ

初級『地図とコンパスを持って六甲山を歩く』

10月6日(火) 白水山～大平山～座頭谷～しるべ岩

11月17日(火) 山羊ノ戸渡～シェール槍～摩耶山

12月15日(火) 冬の安全・快適トレッキング術(座学)

中級『沢歩き』

10月22日(木) 七曲滝～百間滝～似以滝～白石谷～六
甲最高峰

11月19日(木) 大月地獄谷～ガーデンテラス～五助山

12月15日(火) 冬の安全・快適トレッキング術(座学)

上級『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

10月20日(火) 沢登り基礎技術 京都北山・毘沙門谷

11月24日(火) 沢登り基礎技術 高野山・弁天谷

12月15日(火) 冬の安全・快適登山術・積雪期登山の
基礎知識(座学)

2015年10月～12月 自然保護行事

1 東お多福山ススキ草復元活動

10月7日(水)・11月25日(水)・12月12日(土)

2 第19回森の勉強会 10月24日(土)～25日(日)

京都「花園会館」・嵐山

受付：24日 14～15時 解散：25日15時頃

会費 16,000円 締切 9月20日

**3 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づ
くりの会活動)**

10月1日(木)・10月18日(日)・11月5日(木)・11月15
日(日)・12月3日(木)・12月20日(日)

4 やまみち巡視保全活動

本山寺山森林づくりの会の活動日に同じ

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締め切り：自然観察会を除き一週間前まで

スケッチ同好会例会の報告とご案内

初心者、ベテラン共々盛り上がって楽しんでいます。何ととっても素晴らしいのは、野村先生の的確なワンポイント講評です。

第9回ご案内

日時 平成27年11月4日(水)10:00~15:00
 行先 神呪寺石仏道から
 (甲山を背に神呪寺 石仏を描く)
 北山貯水池から
 (甲山・観音山を背に貯水池周辺を描く)
 集合 阪急仁川駅 9時30分 東改札口前

持物 画材(水彩を主とする)、カメラ、折りたたみ椅子、弁当、飲み物、日除け帽子等
 備考 仁川駅より徒歩約25分、震災地滑り資料館に立ち寄り、森林公園を経てスケッチ地へ雨天の場合、地すべり資料館シアタールームで座学
 申込 11月1日(日)迄 浦上芳啓
 携帯 090 7119 5336
 yu-70kih@jttk.zaq.ne.jp

※天候状況による変更等は前日夕までに連絡

第6回報告 (※159号案内では「第5回」と誤記)

日時: 5月11日(月)晴
 行先: 北摂 有馬富士公園
 【参加者】野村哲夫 岩崎しのぶ 浦上芳啓 岡田輝子 久保和恵 薦田佳一 森沢義信 横山規江
 計8名

第7回報告

日時: 平成27年7月6日(月)
 行先: 布引貯水池
 【参加者】野村哲夫 岩崎しのぶ 浦上芳啓 大塚和子 金井良碩 久保和恵 小寺佳美 松上美代子 森澤義信 横山規江 計10名



有馬富士公園から北摂の山々を望む 画: 浦上芳啓



みはらし展望台より神戸市街、港を望む 画: 横山規江

「著者と語る会」のご案内

日時 平成27年11月14日(土)
 14:00~16:00 (受付13:30~)
 場所 大阪府立中央図書館 大会議室(2階)
 〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
 Tel 06-6745-0170
 交通 近鉄けいはんな線(地下鉄中央線乗入)
 荒本駅下車(1号出口)北西へ約400m
 講演 「山でいろんなモノに会いました!
 クマとか変なヒトとかオバケとか」

講師 ゲキ氏(本名 中山和美氏)
 1965年生まれ 大阪在住 イラストレーター、デザイナー 沢と山を愛するへなちょこハイカー 海外溯行同人 雑誌「山と溪谷」にて1993年よりマンガ「でこでこてっぺん」連載開始 今年22年目271回を迎えてまだまだ連載継続中
 申込み・問合せ 〒634-0812 橿原市今井町 2-1-24-704
 中谷 絹子 Tel 0744-29-2760

※会場の都合上、ハガキまたは電話にて11月10日までにお申し込みください。

ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15〔税抜〕
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

ロープレスキュー技術
堤信夫 著 登山家、救助・防災関係者、アウトドア関係者必携。ロープレスキューの技術を解説。 2000円

統一等三角点全国ガイド
一等三角点研究會 編著 五百m以上の全一等三角点を踏査。大地震等による変動を最新データで改訂。2000円

登山案内

一等三角点全国ガイド 改訂版

白く高き山々へ
村中征也 著 アルプス登山やドイツ語留学で得た友との交流や、ヨーロッパの旅。60歳からの青春を謳歌する人生の極意。 1500円

最新刊

スイスの風景
浮田典良 著 スイス全土で出会う様々な風景をどう読めばよいか、地理学的に解説。観光案内にはないスイスが見えてくる。 1900円



オーストリアの風景
浮田典良・加賀美雅弘・藤塚吉浩・呉羽正昭 著 ウィーン、ザルツブルグ、アルプスチロール地方の山岳観光はもちろん、ドナウ平原の町や村など、通常のガイド本では紹介されない穴場スポットも満載！ 知的好奇心溢れる旅へのいざない。 2200円

オーストリアの風景

ウィーンからチロルへ 気軽に歩くガイドブック

最新刊

地の果てパタゴニア。風と氷河が作り出した美しい岩峰に迫る

密林に眠るアンコールの遺跡群と聖山クーレン山系をハイキング

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
**パタゴニア・パイネ&フィッツロイ山群
トレッキングとイグアスの滝 14日間**

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
**世界遺産アンコール遺跡群と
聖山ハイキング 6日間**

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
12/1(火)～12/14(月)	¥978,000

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
12/9(水)～12/14(月)	¥196,000

エミレーツ航空を利用し、大阪発着でパタゴニアへ。チリ側のパイネとアルゼンチン側のフィッツロイの両山群で歩き応えのあるトレッキングを楽しみます。また世界三大瀑布の1つイグアスの滝も訪れます。



▲美しい山容を誇るフィッツロイ

※上記以外にも11、2、3月の設定もございます。お気軽にお問い合わせください。

快適なホテルに連泊し、アンコール遺跡群をたっぷりと探訪します。“歩かなければ見られない遺跡”クーレン山系の遺跡やバンテアイ・スレイ遺跡へもご案内します。



▲世界三大仏教遺跡の1つ世界遺産アンコール・ワット

—◇お知らせ◇—

「ロングトレイル倶楽部」のご案内

世界を代表する“ロングトレイル”の名にふさわしい、各コースをご紹介するロングトレイル倶楽部。専用カタログをご用意しておりますので、お気軽にご請求ください。

◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。

観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 © ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3(TCF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆関西支部設立80周年記念式典を恙なく終えることができ、ここに詳細をお伝えすることができました。

☆『日本山岳会関西支部八十年史』と『近畿分水嶺踏査』を、編集発行を任されていた者として、式典の折に皆様のお手元にお届けすることができ安堵しております。

☆編集作業から解放され、長期にわたり各地を訪れてきました。1ヶ月の間に気温差50度を経験し、地球の広さと多様性を感じました。(M)

発行日 2015(平成27)年9月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 重廣恒夫
編集 加藤芳樹 久保和恵 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社
大阪市北区堂島2-2-28